



神戸大学医学部附属病院薬剤部（教室だより）

奥村，勝彦

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 18:137-137

(Issue Date)

2002-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007768>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007768>



教室だより——

神戸大学医学部附属病院薬剤部

奥 村 勝 彦 (京大薬学部40年卒)

薬剤部は現在23名の常勤薬剤師（うち教授1，助教授1）と若干名の非常勤薬剤師，事務職員および大学院生で業務，研究，教育をこなしています。業務は従来主業務でありました外来患者の調剤から入院患者の注射剤調剤（注射剤の患者毎1日量交付，IVHの混合，抗癌剤の混合など），服薬管理指導など病棟の患者様対象の業務にシフトしております。これは医薬分業の推進による院外処方せんの増加に伴う変化であり，病棟でのリスクマネジメントや患者サービスに貢献しています。また，新薬の臨床試験を管理運営する治験管理センターも別組織ではありますが，薬剤部が主体的に運営しております。診療各科の御協力により治験の依頼件数も多く，実施率も高いことから治験施設としての評価は高いようであります。

研究分野では遺伝子解析による薬剤の適正使用いわゆるテーラーメイド薬物療法の研究を行っております。薬物代謝酵素，トランスポーター，受容体のSNP

解析により患者様個々の体質に合わせた薬剤選択（レスポnderにのみ投与できれば副作用回避可能），薬剤投与量の決定を行うもので，現在注目を集めている研究分野であります。現在稼動している遺伝子診療部に対しても支援，協力しておりますし，神戸市のゲノム先端医療研究開発センターにも協力体制をとっております。厚生労働省は新薬開発においてもテーラーメイド薬物療法を重視しており，治験段階での遺伝子解析データ蓄積が期待されております。

教育では医薬品の適正使用，リスクの回避を中心に臨床薬理学の講義を行うと共に，ポリクリなどで，処方の解釈，処方せん入力演習，TDMの実際など実地学習にも寄与しています。

以上のように薬剤部は業務を中心に研究，教育にもバランスを重視しつつ努力しており，大学独法化にも対応できるよう改革を進めておりますので，今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

